医療法人百藤会

インターコート藤

Medical corporation Hyakutou-kai

Inter Court Fuji

思いを汲み取り、手を差し伸べる仕事

「介護プロフェッショナル」キャリア段位制度を導入

人財育成に重きを置いた環境整備に尽力

心身共に健やかに
過ごしていただくために。
感謝の気持ちと笑顔を大切に、
在宅復帰と地域包括ケアを
目指します。

医療法人百藤会
介護老人保健施設インターコート藤
事務長 北澤 光男

私たち施設は、介護が必要になった高齢者に対して、リハビリテーションを中心とした医療サービスや生活介助を提供し、在宅復帰を目指す介護老人保健施設（老健）です。そのため、介護職員や看護師に加え、医師や理学療法士、作業療法士など、リハビリに特化した職種を配置し、入所だけでなくデイケアやショートステイといった複合的な介護支援サービスを行っています。

医療と介護の機能分担が進む近年、病院から在宅介護に移行できない要介護者の受入施設として、中間的役割を担う老健の重要性はますます増しています。現在、入所待機者数は全国に54万人がいると言われており、団塊の世代が高齢を迎える今後は、さらなる需要の高まりが予測されます。そんな中で介護の仕事は、将来的に花形の職業になるといえるでしょう。そこで、当施設は介護職の「キャリア段位制度」を導入し、それを評価できる評価者（アセッサー）を育てることで、県内でも先進的なレベルの高い介護福祉士の育成に取り組んでいます。

また、老健は、生活の延長にある看取りの場としての役割も担っています。そこで、私たちは利用者様の最期のライフステージとして、「ここにいてよかった」と思っていただける介護を目指しています。そのためにも大切にしているのは、常に相手の気持ちを考え、人生の先輩に当たる利用者様に感謝の気持ちを持ちながら笑顔で対応すること。それらを行動規範として示して意識し合い、「ありがとう」をたくさん言うと、笑顔は自然と溢れ出てきます。

そして、老健として目指すのは、やはり在宅復帰です。そのためにも今後は訪問介護や訪問リハビリ、訪問医療など、本来の地域包括ケアを含めた介護サポートの充実を図っていきます。人としても成長でき、これからも期待される介護の現場で、私たちと共に地域貢献に取り組みませんか。

入職後の研修制度

DAY 1-3
- 施設理念と倫理規定　就業規則等
- 職業人としての社会保険制度のしくみ
- 施設での個人情報の保護と守秘義務等（インターネット・フェイスブック等を含む）
- 施設の防災システムと施設内設備
- 介護老人保健施設のサービスについて（標準サービス・個別サービス）
- 利用者の安全（危険予知訓練）とアクシデントレポートの書き方
- 高齢者の尊厳を守る「人権の尊重」と高齢者虐待とは
- 身体拘束廃止の基本姿勢とやむを得ず行う場合の施設内システム

DAY 4
- 社会人としての職場マナー①<介護施設の場合「遅刻・欠勤」等の連絡も>
- 介護職員ができる医療行為①<点眼・湿布・座薬の使用>
- 感染症の予防と対策①<デスポ手袋の使用方法と手洗い>
- 提供している食事の基礎知識（食事伝票の書き方等）
- 日常的なケアの留意点（プライバシーの保護・同意と声かけ）不適切なケアとは
- 利用者さんの自立支援のためのリハビリテーションの役割

DAY 5
- 腰痛をおこさない移乗・移動の介助方法　福祉用具の使用方法
- 施設の勤務体系　勤務表の見方　自己の健康管理（食事・睡眠・心の安定）
- 施設内探訪・防火設備の確認（消火器・消火栓・放送設備等）

month 1
- 施設で使用しているオムツの種類と使用方法の基本
- 通所リハビリテーション業務と役割
- 短期生活介護事業所の役割
- 特定施設の役割

month 3
- 在宅介護支援センターの業務
- 支援相談員の業務
- 社会人としての職場マナー②<一般常識>

- 利用者体験を含む移乗動作訓練（わかば棟ふろ利用）

month 8
- 介護職員ができる医療行為②<吸引・経管栄養の知識>
- 認知症の理解　ケアのポイント
- 介護支援専門員の業務と役割「施設サービス計画書の流れ」
- 夜間利用者さんの状態の変化時の報告の留意点

- 感染症の予防と対策②<感染性胃腸炎【食中毒】・インフルエンザの予防>

アセッサー 久保 智（くぼさとし）さん

これまで全国的な評価基準がなかった介護職に、知識と技能の両能力を評価する国家基準ができました。その職員（被評価者）のレベル評価を行うのが、厳しい試験に合格した「アセッサー」です。現在、長野県内には30余名のアセッサーがいますが、うち3名が当施設に所属。さらに1名は県内で唯一、アセッサーを評価する外部評価者の資格を有しています。アセッサーは、被評価者にOJTで日々アドバイスをし、深い指導をすることで、より適切な介護ができるようレベルアップを図っています。

キャリア段位制度

level 4
一人前の仕事ができることに加え、チーム内でリーダーシップを発揮することができる段階
チーム内でのリーダーシップ
（例：サービス提供責任者、主任等）
部下に対する指示・指導
本レベル以上が「アセッサー」になれる

level 3
指示等がなくとも、一人前の仕事ができる段階
利用者の状態像に応じた介護や他職種の連携などを行うための幅広い領域の知識・技術を習得し、的確な介護を実践

level 2
一定指示のもとに、ある程度の仕事ができる段階
一定範囲で、利用者ニーズや、状況の変化を把握・判断し、それに応じた介護を実践
基本的な知識・技術を活用し、決められた手順等に従って、基本的な介護を実践

level 1
エントリーレベル 職業準備教育を受けた段階
初任者研修により、在宅・施設で働く上で必要となる基本的な知識・技術を習得

村山 稔幸さん　むらやま・としゆき

介護老人保健施設・いずみ棟に所属。祖父が同施設に入所したことから介護職に興味をもち、高校卒業後に専門学校を経て、2011年3月に入職。明るく元気なムードメーカーとして、利用者さんや職員の人気を集める。

インターコート藤のムードメーカーとして利用者さんとスタッフが一緒に笑う姿がやりがいに。

小学生の時、祖父が脳梗塞で倒れて当施設に入り、楽しそうに働く職員と冗談まじりに話す祖父の姿を見て、介護職に興味をもちました。高校生のある時、嫌な顔ひとつせず祖父のおむつ交換をし、さらに「お待たせしました」と声をかけてくれた職員の姿が本当に印象的で。純粋に「すごい」と感じて、本格的にこの仕事を志すようになりました。だから、就職先も迷わずインターコート藤を希望。働き始めると、利用者さんとゆっくり話をしたいのに、忙しくてなかなか時間が取れないジレンマも感じましたが、どんな時でも利用者さんへの挨拶やボディタッチを積極的に行って笑いを提供したり、スタッフ同士でもコミュニケーションを取るよう心がけています。

今は働き始めて4年目。これまで多くの方を看取ってきましたが、皆さん、よい顔をして最期を迎えていると感じています。職業柄、人の死とは常に向き合わなければなりませんが、それまでにいかによりよい介護ができるか。それが重要です。そして、ご家族から「ありがとう」という声をかけていただく時は、ここまでやれて良かったと心からやりがいを感じます。人の死には決して慣れたくない、最期まで後悔がない介護をしたい、そして、ムードメーカーとして皆さんと楽しく仕事がしたい。それが私の目標です。

早番の1日のスケジュール

7:00 出勤	8:30 口腔ケア、排泄介助	9:00 入浴介助	11:15 休憩	12:30 昼寝	14:00 排泄介助	15:00 おやつ	16:00 退勤
起床した利用者さんの顔や手を洗い、席に案内して、必要な人には薬を飲ませて朝食の介助。	朝食後に口腔ケアをして、排泄介助（おむつ交換）。	週2回の入浴日には、入浴する方とベッドで休む方とで分かれる。入浴はケガをさせたり心臓に負担がかからないよう、もっとも気を遣うので特に慎重に行う。	1時間のお昼休憩	利用者さんのお昼寝を介助	排泄介助は夜勤も含め1日最低4回。なるべく清潔に保てるよう、肌の腫れ具合等でおむつ交換の回数を増やしたり、一人ひとりに合わせた配慮を。	おやつの食事介助。毎月末の誕生日会には誕生日ケーキが出されるので、喫茶風でコーヒーか紅茶を選んでもらう。	夜勤の人に申し送りをして退勤。

喜怒哀楽がある接客業だからこそやりがいは十分にある仕事です。

認知症専門棟である「わかば棟」で、三大介助（食事、排泄、入浴）を中心に行っています。この棟にはご自身の要求を言葉にしたり体調不良を訴えることができない方、いつの間にかケガをしている方がいらっしゃる分、こちらで気づいて働きかけていくことが大切です。そうした難しさはありますが、認知症の方は予想に反する意外な反応が見られるおもしろさがありますし、認知症ではない利用者さんには人生の先輩として悩みごとの相談に乗ってもらうこともあります。また、どんな方からも親心や温もり、優しさを感じ、本当に魅力的な仕事だと感じています。

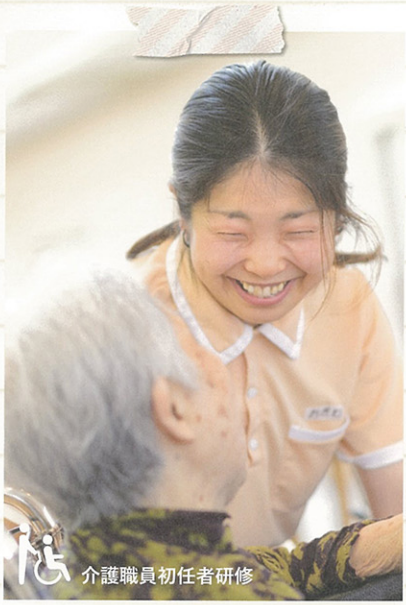
そして、当施設には託児所があるので、子どもと一緒に出勤・帰宅でき、仕事中に子どもたちが散歩をする様子を目にしたり、時には施設内に遊びに来てくれて励みになります。また、年間休日が多く、基本給や資格手当が高いといった面でも、当施設は本当にスタッフ思いで働きやすい職場だと感じています。10代から60代まで幅広い世代の職員が全員で協力し合い、利用者さん本位で明るく前向きに仕事に取り組んでいるのも特徴的。介護職は決して苦しさや大変さが際立つだけの仕事ではないので、この仕事の醍醐味をぜひ若い人たちに実感してほしいですね。

村田 清美さん　むらた・きよみ

高校時代、「介護は“やらせていただく”気持ちで取り組む」という先生の言葉を聞き、介護職を目指す。新卒採用後、一旦退職して2008年再入職。わかば棟（認知症専門棟）に所属。仕事と育児の両立に励む育休復帰者。

日勤の1日のスケジュール

8:30 出勤	9:00 入浴介助	11:40 昼食	12:30 休憩	15:00 おやつ	16:00 レクリエーション	17:00 夕食介助	17:30 退勤
子どもを託児所に預けて、朝ご飯が終わる頃に出勤。食事の片付け後に排泄介助（おむつ交換）。	週2回の入浴日には、入浴する方とベッドで休む方とで分かれる。昼前にリハビリや集団体操をやる人も。	昼食の食事介助を行う。毎月末は誕生日会として食事の献立も変わる。	1時間のお昼休憩	コーヒーか紅茶の希望もご自身で言えない方が多いので、文字に書いて示すなど工夫をしている。	曜日ごとに決められたレクリエーションを行う。	夜勤はふたり体制なので、早めに夕食を食べる利用者さんには17時から提供し、食事介助を行う。	託児所に預けた子どもとともに退勤。



小澤 美雪さん　おざわ・みゆき

2013年8月入職。介護老人保健施設・ひかり棟に所属し、充実した新人プログラムに添って1年間のプリセプター指導の下、仕事を覚え、介護福祉士の資格取得をめざしている。

先輩のマンツーマン指導で仕事のノウハウを覚え、今はプリセプターの指導の下、一人立ちしています。

私がこの仕事をめざすようになったのは、祖母が介護施設に入所したことが大きなきっかけでした。面会で次第に介護の仕事を身近に感じるようになり、それまでの仕事をやめて3カ月の初任者研修を受講。資格を取得し、この世界に飛び込みました。異業種からの転職は不安もありましたが、ずっと興味のあった仕事だったので、今は毎日が楽しく充実しています。

当施設を選んだ一番の決め手は、いくつかの施設を見学した中で職員が一番明るく生き生きと働いていた点。今はその職員の一員として利用者さんが笑顔で楽しく過ごしてくれていることにやりがいを感じています。特に、これまであまり他の利用者さんと関わり合うことがなかった目が見えない利用者さんが、私と関わる中で安心感を覚えて歌を歌ってくれるようになった時は、非常に大きな充実感を感じました。

それぞれの利用者さんに合わせた介助を覚えるのに時間がかかりましたが、大変さよりも楽しさのほうが強く、1日があっという間に過ぎてしまいます。介護未経験の方は不安が多いと思いますが、先輩が確実に教えてくれ、困った時はすぐに相談できるので、一人で悩むことがありません。少しでもやりたいと感じたら、始めてみませんか。

遅番の1日のスケジュール

12:00 出勤	13:00 レクリエーション	16:00 休憩	17:00 夕食介助	18:30 排泄介助	21:00 退勤
朝食後に休息を取っていた方を起こし、昼食介助。その後、口腔ケア。	月曜はビデオ鑑賞、火曜は体操とゲーム等、曜日ごとに決まっているレクリエーションを行う。	1時間の休憩	夕食は早出しが17時から、遅い方は17時50分から（食堂の関係で日によって異なる）。夕食後は口腔ケア。	おむつの方は寝ていただく準備に入り、排泄介助（おむつ交換）。	夜勤の人に引き継ぎをして退勤。

利用者さん一人ひとりとコミュニケーションを取りながら生活改善のお手伝いができる充実感があります。

理学療法士として利用者さんのリハビリを担当しています。歩行や、ベットから車イスへの移動など、日常生活の中で利用者さんがやりたいことを、ご家族と相談しながら練習しています。短期集中リハビリや通所者の対応も行っています。

この仕事を目指したきっかけは、母が看護師で以前から医療に興味があったのも大きいのですが、これからの時代、リハビリや運動など予防的な医療が活躍していくと思ったから。また、専門学校の実習を通じて、病院よりも和やかな空気が漂い、利用者さんとのコミュニケーションが図れる老健のほうが自分に合っていると感じました。そこで、特に利用者さんとスタッフとのやりとりが楽しそうだと感じた当施設で自分の力を試してみようと思ったのです。

今は、利用者さんの体調やリスク管理を常に気にかけながら仕事に取り組んでいます。そんな中で利用者さんから「リハビリのおかげで痛みがなくなったよ」と言ってもらえるとうれしいですね。PT（理学療法）やOT（作業療法）に力を入れている介護施設はまだまだ少ないのが実状ですが、実際、もっと運動をしたい利用者さんはたくさんいらっしゃいます。そこで今後は、さらなるリハビリの充実を図っていきたいですね。

渡邉 望さん　わたなべ・のぞむ

看護師である母親の影響を受けるとともに予防医療であるリハビリテーションの重要性を感じ、専門学校を経て2013年4月に入職。リハビリ課に所属し、1日に平均20人ほどのリハビリを行っている。

日勤の1日のスケジュール

8:30 出勤	9:00 入所者のリハビリ	10:30 通所者のリハビリ	12:00 カルテの記入	12:30 休憩	13:30 通所者のリハビリ	15:00 入所者のリハビリ	17:30 退勤
夜勤の介護福祉士から利用者さんの状態の報告を受け、1日の予定を確認。	入所者の中の希望者に対して、本人の希望に応じたリハビリを行う。	デイケアを利用している方にリハビリを行う。短期利用である通所者の名前と顔を一致させるのに苦労したことも。	リハビリを受けてカルテを記入。	1時間のお昼休憩	午前中に続き、デイケア利用者のリハビリを行う。通所者は日帰りなので、優先的に時間を設定。	午前中に対応できなかった入所者のリハビリを行う。リハビリのスケジュールはケアマネージャーに相談しながら決定している。	リハビリ終了後に書類関係をまとめ、退勤。

納涼祭

寿老祭

もちつき

開放感あふれる明るいロビー

室内からの眺め

施設に咲く花

季節開催の行事

2月　豆まき
7月　納涼祭
10月　寿老祭
12月　もちつき

定期開催の行事

毎週日曜日　詩吟ボランティア
毎月1回　ハーモニカボランティア
不定期　ハローアニマル（犬やうさぎ、モルモットなどとのふれあい）
不定期　子供との交流会（事業所内託児所の子供たちや近所の保育園児との交流）

医療法人百藤会　介護老人保健施設インターコート藤　長野県長野市青木島町綱島字小中島782-6　TEL 026-284-5777